【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成28年9月1日(2016.9.1)

【公表番号】特表2015-528185(P2015-528185A)
【公表日】平成27年9月24日(2015.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2015-059
【出願番号】特願2015-521777(P2015-521777)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｒ　13/64　　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/639　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ　13/64
Ｈ０１Ｒ　13/639　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成28年7月8日(2016.7.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つのプラグ型コネクタを受容するための連結器アッセンブリであって、
少なくとも第１ポートを規定する連結器ボディ；
連結器ボディに連結させた第１止め部材；および
第１止め部材に動作可能に連結されたアクチュエータ
を有して成り、
第１止め部材が、係止状態と非係止状態との間で連結器ボディに対して移動するように構成されており、
第１止め部材が、係止状態にある際に第１ポート内に少なくとも部分的に配置されており、
アクチュエータが、係止状態と非係止状態との間で第１止め部材の移動を制御するように構成されており、
アクチュエータが、連結器ボディまたは連結器ボディを含む装置に連結されたローカルプロセッサ又はリモートプロセッサを含む管理システムにより制御されている、連結器アッセンブリ。
【請求項２】
第１止め部材は、係止状態に向かってばねのバイアスが掛けられており、また、アクチュエータは、ばねのバイアスに対して第１止め部材を選択的に保持する、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項３】
第１止め部材が非係止状態と係止状態との間で上下するように構成されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項４】
第１止め部材が非係止状態と係止状態との間で枢動するように構成されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項５】
複数の追加の止め部材を更に有して成り、

各々の止め部材が、各係止状態と各非係止状態との間で連結器ボディに対して移動するように構成されており、連結器ボディが複数の追加のポートを規定し、追加の止め部材の各々が、該追加の止め部材が係止状態にある際に追加のポートの１つの内部に少なくとも部分的に配置されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項６】
連結器ボディが第１ポート内に当接面を含み、該当接面がプラグ型コネクタのラッチと係合するように構成されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項７】
連結器ボディが光アダプターを含む、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項８】
連結器ボディが電気ジャックを含む、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項９】
アクチュエータは、第１止め部材を機械的に移動させるように構成されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１０】
アクチュエータは、第１止め部材を電磁的に移動させるように構成されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１１】
前記第１止め部材が係止状態に置かれる際に、該第１止め部材によってプラグ型コネクタがポートから取り外れることが阻止される、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１２】
前記第１止め部材が非係止状態に置かれる際に、該第１止め部材によってポートからのプラグ型コネクタの取り外しが許容される、請求項１１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１３】
第１止め部材は、該第１止め部材が係止状態に置かれる際にポート内へのプラグ型コネクタの挿入を回避する、請求項１１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１４】
連結器アッセンブリは非係止状態と係止状態との間で移動する個別の止め部材を各々含む複数のポートを規定し、また、管理システムは各々の止め部材の移動を別々に制御する、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【請求項１５】
連結器アッセンブリは、ポートからプラグ型コネクタを取り出すための取り出し部材を有して成り、取り出し部材は管理システムにより制御されている、請求項１に記載の連結器アッセンブリ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明の他の態様は、プラグ型コネクタを含むコネクタシステム、および連結器アッセンブリに関する。プラグ型コネクタは、切欠き部を規定するプラグ・ボディおよびプラグ・ボディに連結されたラッチアームを含む。ラッチアームは、非偏向状態と偏向状態との間で動作可能なラッチラグを含む。連結器アッセンブリは少なくとも１つのポートを規定し、当該ポートで第１止め部材を含む。プラグ型コネクタが連結器アッセンブリのポートで受容される際、連結器アッセンブリの当接面はラッチアームのラッチラグと係合するように構成される。第１止め部材は、非係止状態と係止状態との間で動くように構成されている。第１止め部材が非係止状態に置かれている際、第１止め部材によりプラグ型コネクタをポートから外すことができる。第１止め部材は係止状態に置かれている際、第１止め部材によりプラグ型コネクタがポートから取り外れることが回避される。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
図２に示すように、プラグ１１０は、プラグ・ボディ１１１に規定される切欠き１１５内に止め部材１４０を下げることで連結器１２０から取り外し可能なようにロックされる。止め部材１４０の一部が切欠き１１５に配置される間、ロック部材１４０はプラグ１１０が外れることを回避する。プラグ１１０は切欠き１１５よりも外側に止め部材１４０を上げることで取り外される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
ある態様では、プラグ１１０が各ポート１２２内に挿入される前に、アクチュエータ１５０は非係止状態にストップ機構１４０を保持する。従って、ユーザーは希望する際にプラグ１１０の挿入を自由に試みることができる。他の態様では、しかしながら、アダプターのポート１２２に何もない際、アクチュエータ１５０は係止状態にストップ機構１４０を保持する。そのような態様では、アクチュエータ１５０が止め部材１４０を解放するまで止め部材１４０はプラグ１１０の挿入を回避する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
図８に示すように、各止め部材２４０は係合端部２４５および作動端部２４８を有するストップボディ２４１を含む。作動端部２４８は、ストップボディ２４１から外側に横方向に延在するアーム２４６を含む。アーム２４６により、止め部材２４０が経路２２６を完全に通過することが回避されている。例えば、止め部材２４０が係止状態に置かれる際、各アーム２４８は支持壁２２７に据え付く（または固定する;seat on）当接面２４７を規定する（図１２参照）。